

経営学部 リフレクションペーパー

2011 年度 <前期>

教員氏名 大内 秀二郎
担当授業科目名 (曜日・時限) 流通企業戦略論 I (火曜 2 限), 商学 A (火曜 5 限) 流通システム論 I (金曜 3 限・6 限 [2 クラス開講])
1. アンケート結果に対する総評 流通企業戦略論 I (10 段階評価で平均 8.7), 流通システム論 I (3 限クラス 8.4, 6 限クラス 8.8) については、概ね好評であったと理解している。しかしながら商学 A は 7.4 と全科目平均を下回る結果であり、授業の改善が強く求められていると言える。講義内容 (商業の定義, 商業の存立根拠, 商業の動態的発展) が、学生にとっては「最新の情報を提供してもらえない」、「刺激が少なく授業内容にあまり興味が持てない」、さらには「教員の熱意があまり感じられない」といった評価につながったように思われる。 商学 A は必修科目であり、学生が自ら選択して履修するわけではない点において他の科目とは条件が異なるため、授業評価の結果を他と単純に比較することは短絡的である。しかしながら、今年度の授業においては、講義を通じて学生の関心を喚起し得なかったこと、学生を大学における学習にスムーズに導くことができなかつたことは否定し得ない。この点については深く反省したい。
2. 授業を行う上で工夫した点、良かった点 流通システム論 I と流通企業戦略論 I については、新聞記事や映像などの資料も交えながら、理論と実践の両面から流通の全体像を理解できるように心がけた。加えて、抽象度の高い内容が多く含まれる流通システム論 I では、図を多用する、身近な商品の例を挙げて考えさせる、など、学生の理解を助けるべく工夫した。また、今年度は流通システム論 I の金曜 3 限クラスが 200 人を超えるクラス規模になり、健全な講義環境を保つことが困難になることが予想されたため、私語等に対する注意を積極的に行うように心がけた。
3. 今後の改善点 商学 A については、講義の内容自体の見直しも含めた大幅な改善が必要である。これまでは限られた講義回数の中に多くの内容を盛り込みすぎる傾向があったので、内容を絞り込んででも、学生の学習意欲を高める工夫を取り入れたい。具体的には、例えば、毎回同じ講義形式で授業をするのではなく、基礎ゼミのクラス分けを活用して学生に議論させる回を設けるなど、学生参加型の授業スタイルを一部導入することを検討している。 流通システム論 I と流通企業戦略論 I については、これまでの講義内容・方法を基本的には継続したい。ただし、以前よりは幾分改善されてきているものの、私語が多いという意見がまだ散見される (特に流通システム論 I 金曜 3 限クラス) ので、これまで以上に、静粛な講義環境の維持に努めたい。また、個々の努力の範囲を超えることではあるが、クラスの規模が 200 名を超えないような対策 (時間割編成上の工夫もしくはクラス分割) も必要であろう。